

位相差測距点759点を 撮像領域の94%に配置



撮像領域のほとんどすべてともいえる約94%に759点の位相差測距点があるので、主要被写体を画面の端っこに寄せてもピントが背景に引張られにくい。鳥がいる風景をライフワークにしている筆者にとって、これはとてもありがたい。

DATA

レンズ FE 70-200mm F2.8 GM OSS II モード M 絞り F4
シャッター 1/1000秒 ISO 250 WB オート 露出補正 +0.1 焦点距離 116mm

10種類のプリセットを搭載した クリエイティブブック



10種類のモードがカメラ内に搭載されているので、撮り手のイメージに合わせた表現が可能になった。日本画のようなイメージで鳥がいる風景をモノクロで表現したかったので、「BW」を選択して撮影した。

DATA

レンズ FE 100-400mm F4.5-5.6 GM OSS・NDフィルター モード M 絞り F8
シャッター 4秒 ISO 100 WB オート 露出補正 0 焦点距離 400mm



初夏の水辺。空気がクリアな早朝、上空には印象的な雲が広がり、雲がないところの青い空も息をのむほど美しかった。これを伝えるには色鮮やかでインパクトのある仕上がりとなる「VV」が最適だと判断して撮影した。

DATA

レンズ FE 16-35mm F2.8 GM モード M 絞り F8
シャッター 1/500秒 ISO 200 WB オート 露出補正 +0.3 焦点距離 20mm

08 画角に関する設定

KEYWORD ▶ アスペクト比

1 アスペクト比の変更

a7 IVでは画像の横縦の比率を[3:2]、[4:3]、[16:9]、[1:1]から選択できる。3:2は35mm判フィルムと同じ比率で、カメラでは一般的に使用されている。16:9はハイビジョンテレビでの鑑賞に適しており、横長の印象になる。

[設定方法]



今現在、写真撮影ではメインとなるアスペクト比が3:2だ。この比率は、縦位置でも横位置でも、フレーミングしやすく、被写体も選ばない。



動画でメインとなる比率が16:9で、今後はもしかしたら、静止画でもメインになる可能性がある。3:2とは異なる表現ができるので、静止画でも試してほしい。

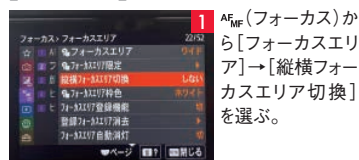
2 APS-C S35mm (Super35mm) 撮影

通常のアスペクト比以外にも、静止画撮影時にAPS-C S35サイズ、動画撮影時にSuper35mmサイズ相当の画角で記録するかどうかを設定することもできる。📷(撮影)の[画質]→[APS-C S35撮影]を[入]に設定することで、画角を1.5倍にして撮影できる。

3 縦位置撮影

縦位置で撮影をする際、フォーカス枠を横位置撮影のときの位置から切り換えることができる。筆者は縦位置と横位置でそれぞれフォーカスエリア+位置を固定し、自分のデフォルトにしている。撮影ジャンルが何であれ、大変便利なので、ぜひ試してほしい。

[設定方法]



[縦横フォーカスエリア切替]



瞳の検出対象が人物に設定されていれば、広めのフォーカスエリアでも目以外にピントが引っぱられてしまうことはまずはない。このときは、トラッキング:ゾーンにして、中央より上にして撮影した。

このときは、AF-Cでフォーカスエリアはトラッキングスポット:Lにして、中央より少し左下に設定して撮影した。

ONE POINT

縦位置の撮影ではタッチ機能を無効にする

a7 IVには、カメラが縦横どちらの状態に置かれているのかを自動的に感知する機能が搭載されている。そのため、カメラが縦位置のときにはタッチ機能を[切]にしておきたい。横位置なら指を伸ばしてモニターをタッチするのが簡単だが、縦位置では難しく、不用意に鼻などで触ってしまわないためである。

02 フォーカスエリア

KEYWORD ▶ フォーカススタンダード ▶ フォーカス枠

1 各エリアの特徴

撮影時において、ピントを合わせる位置の判断をするのがフォーカスエリアであり、α7 IVでは6種類のエリアから選ぶことができる。カメラから一番近いところに合わせたり、人間の顔を検出したり、さらにはその顔の中の瞳にピントを合わせたりと、手動から全自動まであらゆる方法から選べる。撮影する状況や被写体に応じて切り換えてみよう。

[フォーカスエリアの種類]

ワイド	モニター全体を基準に、自動ピント合わせをする。
ゾーン	モニター上でピントを合わせたいゾーン的位置を選ぶと、その中で自動でピントを合わせる。
中央固定	モニター中央付近の被写体に自動ピント合わせをする。フォーカスロックと併用して好きな構図で撮影が可能。
スポット(S/M/L)	モニター上の好きなところにフォーカス枠を移動し、非常に小さな被写体や狭いエリアを狙ってピントを合わせる。
拡張スポット	[スポット]の周囲のフォーカスエリアをピント合わせの第2優先エリアとして、選んだ1点でピントが合わせられない場合に、この周辺のフォーカスエリアを使ってピントを合わせる。
トラッキング	[フォーカスモード]が[コンティニュアスAF]のときのみ選択可能。シャッターボタンを半押しすると、選択されたAFエリアから被写体を追尾する。

[設定方法]



AF_{MF} (フォーカス) から[フォーカスエリア]→[フォーカスエリア]を選ぶ。またはC2ボタンを押す。

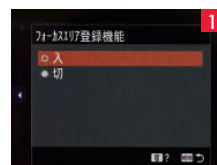


希望のフォーカスエリアを選択し、コントロールホイールの中央を押す。

2 フォーカスエリアの登録

自分がよくピントを合わせる場所が決まっている場合は、フォーカスエリア登録機能が便利だ。これは、カスタムキー (→P.102) を使ってフォーカス枠をあらかじめ登録した位置に一時的に移動させることができる機能である。例えば、フォーカススタンダードを任意のボタンに割り当てておくと、ボタン1つでフォーカス枠を中央に戻すことができる。カスタム登録をする際は、「押す間」なら割り当てたボタンを押している間だけ、「再押し」なら一度押せば登録位置にフォーカス枠が移動し、戻らない。

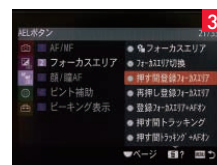
[設定方法]



AF_{MF} (フォーカス) から[フォーカスエリア]→[フォーカスエリア登録機能]を選び、[入]に設定する。



フォーカスエリアを希望の位置に設定し、Fnボタンを長押しする。



Ⓕ(セットアップ)の[操作カスタマイズ]→[カスタムキー/ダイヤル設定]から希望のキーを選び、[押す間登録フォーカスエリア]を選択する。撮影画面で割り当てたキーを押すと、設定した位置にフォーカス枠が表示される。

[拡張スポット×フォーカススタンダードの場合]



マルチセレクターでフォーカス枠を移動する。



フォーカススタンダードを割り当てたキーを押すと、フォーカス枠が中央に戻る。

[中央固定の場合]



モニター中央付近の被写体に合わせてフォーカス枠が固定される。



撮影ポジションを変えても、中央にフォーカス枠が表示され続ける。

06 測光モード

KEYWORD 測光モード

1 測光モードの種類

P/A/Sモードなどの自動露出モードで撮影する際、画面のどの部分を基準に露出を測るのかを決めるのが測光モードだ。a7 IVでは5種類の測光モードを被写体によって使い分けすることができる。

[測光モードの種類]

マルチ	複数の分割したモニターを各エリアごとに測光し、画面全体の最適な露出を決定する。
中央重点	モニターの中央部に重点をおきながら、全体の明るさを測光する。
スポット	スポット測光サークル内のみで測光する。画面内の特定の場所を部分的に測光したいときに適している。
画面全体平均	画面全体を平均的に測光する。構図や被写体の位置によって露出が変化しにくい。
ハイライト重点	画面内のハイライト部分を重点的に測光する。被写体の白飛びを抑えて撮影したいときに適している。

[設定方法]



1 [露出/色]から[測光]→[測光モード]を選ぶ。



2 希望の測光モードを選択し、コントロールホイールの中央を押す。

ONE POINT

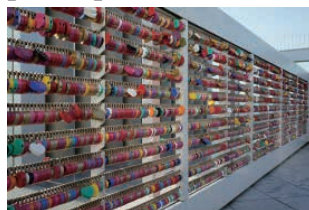
AEロックで露出を固定する

AEロックとは、背景と被写体に大きな明暗差がある場合に、被写体が適正な明るさになる箇所まで測光し、露出を固定して撮影するための方法である。撮影時、測光したい箇所にピントを合わせ、AELボタンを押すとモニターに✱(AEロックマーク)が表示され、露出が固定される。AELボタンを押したまま、撮影したい被写体にピントを合わせ直してシャッターを切ると、固定した露出値で撮影できる。

2 測光モードの使い分け

明暗のコントラストがあまりないシーンでは「画面全体平均」で、白飛びさせたくないときは「ハイライト重点」で、といった具合に、被写体に応じて測光モードを使い分けると、露出の失敗を防げる。慣れるまでは、動きがない同じ被写体を、絞りとシャッタースピード、ISO感度を固定してすべての測光モードで撮り分け、それぞれの傾向をつかむとよい。

[マルチ]



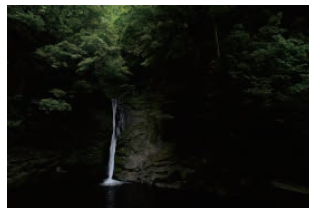
右上の明るい空や右下の暗いコンクリートなど、画面の中に明るいところと暗いところが混在しているシーンではマルチ測光がよい。

[中央重点]



画面左上の空がいちばん明るいところ。ここを測光しない中央重点を選択することで、主役のモデルを適切な明るさで写すことができた。

[スポット]



滝の流れに重きをおき、神秘的なイメージを伝えたかったので、他の明るさは犠牲にして、水の流れがちょうどよい明るさになるスポット測光+AEロックで撮影。

[画面全体平均]



曇天で、画面の中の明るいところと暗いところの差があまりないシーン。こんな場面では画面全体平均測光が便利だ。

[ハイライト重点]



看板が読めることを最優先事項にして撮影したかったので、看板の白が白飛びしないように、ハイライト重点測光を選択した。

01 標準ズームレンズ

KEYWORD ▶ 動画 ▶ 露光間ズーム

1 標準ズームレンズの効果

カメラにおいて、一般に35mm換算で50mm前後の焦点距離は、人間の視野に近く自然な画角になるといわれている。その50mm域を中心にカバーするレンズを標準ズームレンズという。近年は24-70mmが標準ズームの定番のズーム域となっている。近年の標準ズームレンズは携行性に優れ、解像力も向上しているので、はじめの1本として強くおすすめしたいレンズだ。



FE 24-70mm F2.8 GM II

焦点距離：24-70mm
開放絞り値：F2.8
レンズ構成枚数：15群20枚
フィルター径：φ82mm
最短撮影距離：0.21(W)-0.3(T)m
オープン価格

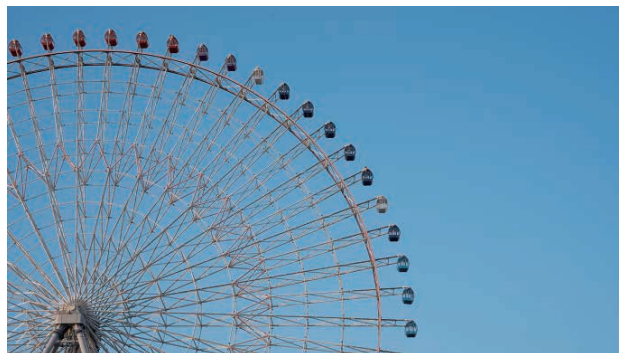


DATA
モード M
絞り F11
シャッター 1/2秒
ISO 100
WB オート
露出補正 -0.3
焦点距離 53mm

新緑の頃の滝を、FE 24-70mm F2.8 GM IIで中距離から狙った。大きすぎず小さすぎず、おさまリよくフレーミングするために、ズーム域を53mmにして撮影した。

2 動画撮影

標準ズームレンズは比較的サイズが小さく軽量なものが多いため、持ち出しやすさも魅力。動画撮影でそれなりの時間使っても負担を感じにくい。また、オートフォーカスは極めて速く、かつ静かなので、モーター音が動画に入る心配もない。動画撮影で使いやすいズーム域といえるだろう。



解像力をテストする意味で、空気の影響がある少し遠めの距離から観覧車を動画で撮影したが、結果はご覧の通り、高い解像性能だ。

3 露光間ズーム

シャッターを開いている間にズームリングを動かす露光間ズームもおすすめだ。カメラを三脚に固定して、イルミネーションなどを被写体に、1/4秒から2秒ぐらいの間を目安に露光している間にズームする。そうすることで、飛び出るような写真が撮れる。



左の撮影現場で、暗くなってライトアップされてから撮影したのが右の写真。シャッタースピード1秒で、露光中に24mm側から70mm側へズームした。

03 カスタム設定

KEYWORD カスタム撮影

1 カスタム撮影設定の登録

スポーツや野生動物など、状況が変化しやすく、被写体に合わせて瞬時にフォーカスエリア設定を切り換えたい撮影では、カスタム撮影設定登録がおすすめだ。各ボタンと機能の割り当てを上手に組み合わせられれば、撮影効率も向上する。ここでは撮影モードをAF-ONボタンで瞬時に切り換える設定方法を紹介する。



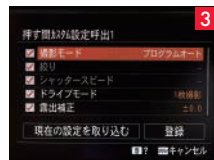
[設定方法]



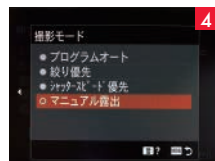
☑(撮影)から[撮影モード]→[カスタム撮影設定登録]を選ぶ。



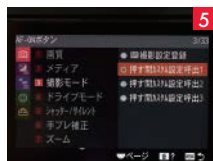
[押す間カスタム設定呼出]を選ぶ。3つまで登録することができる。



撮影設定を選ぶ画面から、[撮影モード]を選択する。



希望の撮影モードを選ぶ。



[操作カスタマイズ]の[カスタムキー/ダイヤル設定]から、AF-ONボタンを選択し、[押す間カスタム設定呼出1]を選ぶ。



撮影時にAF-ONボタンを押すと、瞬時に撮影モードがMに切り換わる。

2 カスタム撮影設定の呼び出し

登録したカスタム撮影設定は、割り当てたボタンを押している間だけ、その設定を呼び出せる。設定をすばやく切り換えられるので、ワンシーンで1つの被写体をバリエーション豊かに撮り分けたいときなどは非常に便利だ。いろいろ試して、自分なりに使いやすいように割り当ててみてほしい。下の写真は、[押す間顔/瞳優先OFF]をAELボタンに登録し、3カットを撮影した。



AF時の顔/瞳優先を[入]に、顔/瞳検出対象を鳥に設定して、アオサギの全身を撮影。



その後、AELボタンを押して、登録している「押す間顔/瞳優先OFF」を呼び出して、アオサギの背中をクローズアップ。



さらに、AELボタンを離すことで、顔/瞳優先が[入]になり、アオサギの顔を寄りで撮影した。

ONE POINT

よく使う設定をメモリーカードに保存する

カスタムキーに登録した撮影設定などは、メモリーカードに保存することができる。バックアップを取りたいときや、同じ型名の他のカメラに設定をコピーしたいときにもおすすめだ。設定の保存・読込は、☑(セットアップ)の[設定初期化/保存]→[設定の保存/読込]から行える。

03 クリエイティブルック

KEYWORD ▶ クリエイティブルック

1 クリエイティブルックの設定

クリエイティブルックとは、カメラにあらかじめセットされた作画りのプリセットである。搭載されたルックの中から画像の仕上がりを選ぶことができ、さらに、ルックごとに、コントラスト、ハイライト、シャドウ、フェード、彩度、シャープネス、シャープネスレンジ、明瞭度なども微調整できる。

[クリエイティブルックの種類]

ST	ST	被写体・シーンに幅広く対応する標準の仕上がり。
PT	PT	肌をより柔らかに再現する。人物の撮影に適している。
NT	NT	彩度・シャープネスが低くなり、落ち着いた雰囲気に表現する。パソコンでの画像加工に適している。
VV	VV	彩度とコントラストが高めになり、花、新緑、青空、海など色彩豊かなシーンをより印象的に表現する。
VV2	VV2	明るく色鮮やかな発色で、明瞭度の高い画像に仕上がる。
FL	FL	落ち着いた発色と印象的な空や緑の色味に、メリハリのあるコントラストを加えることで雰囲気のある画像に仕上がる。
IN	IN	コントラストと彩度を抑えたマットな質感に仕上がる。
SH	SH	透明感・柔らかさ・鮮やかさを持つ明るい雰囲気に仕上がる。
BW	BW	白黒のモノトーンで表現する。
SE	SE	セピア色のモノトーンで表現する。

[設定方法]



希望のルックを選択し、コントロールホイールの中央を押す。

2 10種類のプリセットの撮影

α7 IVでは、ST、PT、NT、VV、VV2、FL、IN、SH、BW、SE、と10種類のクリエイティブルックが用意されている。JPEGで撮る頻度が高い人はクリエイティブルックをいろいろ変えながら、そのシーンに最適なイメージのものを一つつけてほしい。なお、RAWデータには反映されないので注意が必要だ。

[ST]



標準的な仕上がりになるプリセット。見た目に近いイメージとなった。

[PT]



肌の色が自然になるPTは、人物の撮影に向く。

[NT]



年季の入った橋の落ち着いた雰囲気を表現するにはNTが最適と判断した。

[VV]



色鮮やかなチューリップが咲いていたので、インパクトのある仕上がりが期待できるVVで撮影した。



[VV2]

光が全体的に拡散して眠いイメージだったので、あえて見た目よりも明瞭度が高いVV2を選んだ。

07 外部フラッシュの制御

KEYWORD ▶ フラッシュ

1 外部フラッシュの設定

暗いところでの撮影や、逆光時にシャドウをおこしたいときはフラッシュを活用することで、表現の幅が広がる。α7 IVにフラッシュは内蔵されていないので、事前に別売りの外部フラッシュを購入しておき、発光などの詳細設定を行う。



[フラッシュモードの種類]

発光禁止	フラッシュを発光させない。
自動発光	光量不足や逆光と判断したとき発光する。
強制発光	必ず発光する。
スローシンクロ	必ず発光する。スローシンクロでシャッタースピードを遅くして撮ると、被写体だけでなく、背景も明るく撮れる。
後幕シンクロ	露光が終わる直前のタイミングで必ず発光する。走っている自動車や歩いている人など動いている被写体を撮ると、動きの軌跡が自然な感じで撮れる。

[設定方法]



別売りのフラッシュをカメラのマルチインターフェースシューに取りつける。

レバーを右にスライドしてLOCKをする。

カメラとフラッシュの電源を入れる。



4 [露出/色] から [フラッシュ] → [外部フラッシュ設定] を選ぶ。



5 希望の設定を選ぶ。

2 フラッシュで撮影

外部フラッシュHVL-F60RM2は、純正ならではのα7 IV本体とのコミュニケーションにより、光量のばらつきを抑制し、同調速度1/400秒が可能となった。また、サイドフレーム補強構造金属シューを搭載したことで、前モデルのHVL-F60RMよりも強度が向上し、シュー部分にシーリングを行うことで、防塵・防滴性能も向上している。

[-1.3]



[補正なし]



[+1.3]



背景が明るい外になるように、窓をあけてモデルに立ってもらった。モデルがいる室内と背景の屋外との明暗差が激しいので、背景に露出を合わせるとモデルは真っ黒に、モデルに露出を合わせると背景は真っ白に飛んでしまう。そこで、HVL-F60RM2をつけて発光した。-1.3と補正なし+1.3の3枚を見比べると発光量の違いがわかる。

[顔認識との連動]



α7 IVはHVL-F60RM2の対応カメラとなっているので、適切に連動し、顔検出と連携して、顔がナチュラルな色調になるようにカメラ側で最適化される。白のTシャツを着たモデルを白バックで撮影して試したが、ご覧の通り、自然な色合いで再現された。

ONE POINT

フラッシュ撮影時の設定が保存できる

α7 IVでは本体ソフトウェアVer.1.10から、フラッシュ撮影時のシャッタースピードとISO感度の設定値が保持できるようになった。これにより、外部フラッシュの設定もメモリーカードへの保存/読込が可能になった。

03 S-Cinetone

KEYWORD ▶ S-Cinetone ▶ ピクチャプロフィール

1 S-Cinetoneの特徴

ソニーのFX3などのCinema Lineで好評の「S-Cinetone」がa7 IVにも搭載された。人の肌を美しく見せるために、中間色の表現が豊かになっていて、ソフトな色合いで描写される。また、ハイライトのコントラストが低いので、自然なトーンに仕上がるのが特徴だ。人物を動画で撮影するときに、ぜひとも使いたい機能だ。

[設定方法]



☑ (露出/色) から[カラー・トーン] → [ピクチャプロフィール]を選ぶ。



コントロールホイールの▲/▼でPP11 (S-Cinetone)を選ぶ。

[PP11切]



[PP11入]



S-Cinetoneの設定で動画を撮影した。左の[切]にして撮影したものと見比べると、シャドウが持ち上がり、ハイライトのトーンもナチュラルであることがわかる。

2 S-Cinetoneによる撮影

S-Cinetoneは、ハイライトのコントラストが低く、ソフトな色合いなので、人によっては黒の締まりがもう少しほしいと思うかもしれない。そんな場合はブラックレベルを+3から+5ぐらいに設定することをおすすめする。



女性がベンチに座って、マスクをとり、水を飲む一連のシーンを動画で撮影した。少し広めの画角で撮影しているが、人物の肌のトーンは実にナチュラルだ。

DATA

モード M 絞り F2.8 シャッター 1/50秒 ISO 320 WB オート
露出補正 +0.7 焦点距離 35mm レンズ FE 35mm F1.4 GM



カメラをかまえて写真を撮る女性を動画で撮影した。肌のトーンが自然な感じなのはもちろんのこと、カメラを持つ左手のハイライトの描写も心地よい。

DATA

モード M 絞り F5.6 シャッター 1/50秒 ISO 200 WB オート
露出補正 +0.7 焦点距離 35mm レンズ FE 35mm F1.4 GM

Capture One Express SonyのRAW現像

KEYWORD Capture One Express Sony ▶ モノクロ現像

1 Capture One Express Sonyをダウンロードする

Capture One Express Sonyは、以下のURLから無料でダウンロードすることができる。また、有料でCapture One Proにアップロードすることができ、Capture One Express Sonyでは使用できない機能が使えるようになる。

<https://www.captureone.com/ja/account/download/capture-one-express-for-sony>

[設定方法]



サイト内の[ダウンロード]をクリックする。



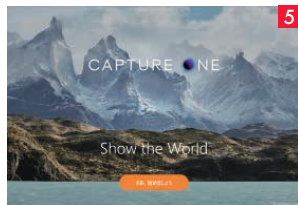
Eメールアドレスとパスワードを入力し、ユーザー登録をする。



入力後、自動的にダウンロードが完了し、使用許諾契約書の同意画面が表示される。同意して[次へ]をクリックする。



セットアップが完了する。



アプリを立ち上げて作業を開始する。

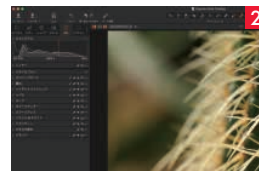
2 モノクロ現像に挑戦する

クリエイティブルックをBWに設定して撮影すると、JPEG撮って出しの画像はモノクロとなるが、Capture One Express SonyのRAW現像でモノクロにすることもできる。RAW現像でモノクロにする場合、自分のイメージに合わせて詳細に調節できると、調整を繰り返しても画像があまり劣化しないのが利点だ。

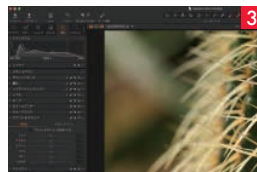
[設定方法]



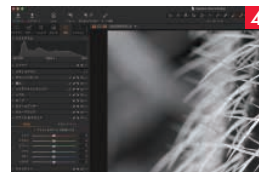
Capture One Express Sonyを立ち上げる。



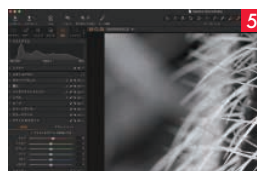
画面左上のツールタブの[調整]をクリックする。



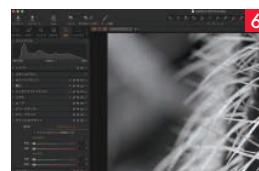
[ブラック&ホワイト]の左の矢印をクリックする。



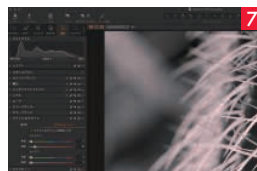
[ブラック&ホワイトを有効にする]にチェックを入れる。



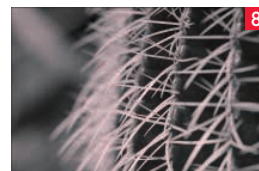
[感色性]のレッドを10にしてシャドウを少し起こす。



[感色性]の右のスプリットトーンをクリックする。



[ハイライト]の彩度を10にして、メリハリをつける。



編集が完了したら、[Export]からデータの書き出しを行う。